民生労働

大阪に通勤寮を設置
職業訓練所にも新種目

高等学校卒業者の皆さんの就職難は年をおつて厳しくなりますが、この卒業者の就職促進の一対策として、五十人程度が収容できる通勤寮を大阪に新設して初めて就職する人々の安定をはかることにしました。なお、職を求める人々に基礎的な技術を習得させるため、県下六ヵ所に職業訓練所を設置していますが、本年度はさらにこれまでの職種のほかに「ノコの目立」の種目を加えて、実習場の建築費や機械器具などの購入費の予算も計上しています。

生活困窮の遺族の方で、まだ靖国神社に参拝ができない方々のために団体参拝の補助金八十三万円も計上しています。

職業訓練所の実習風景……■

衛生

保健所の機能を増強
松橋療護園も増床

手足の不自由な子供たちのための県立松橋療護園には、現在ベッドが七十床ありますが、申込者が多くて入所できない可哀想な子供たちのために、本年度は五十床を増床して御要望にこたえることとし、また保健所の最も大切な原動力であるレントゲン機械や自動車など更新の必要に迫られているものは新たに購入することにして保健所機能の充実を図り、又八代市一円の総合伝染病院の設置に対して建設費補助金五百十三万円余を計上して伝染病予防対策の一助としています。

なお、現在県は桜ケ丘結核療養所、小川院を運精神病院、松橋療護園の三つの病営していますが、公立病院としての治療や看護のサービスを向上させるために医師及び看護を充実する経費約三百三十万円を新たに計上しています。

松橋療護園の子供たち……■

教育

高校の学級増加や
大津に農業高校を

学校教育の面では、教育の振興と内容充実に重点をおいています。老朽化が甚しい熊本商業高校を鉄筋二階建に改築することにしたほか、高校の学級増加については、競争率や地域性などを考慮して、全日制に四学級、定時制に二学級の増加を図つてご要望に応じ、特に定時制の分は、熊本工業高校に電気及び機械の二学級を新設して、勤労者少年に対する科学教育、産業教育の場としたいと考えています。

このほか、大津高校はこれまで普通部と農業部に分れていましたので、農業部を独立の農業高校とすることにし、また精神薄弱児童生徒の教育の充実をはかるために、小学校に七学級、中学校に一学級の特殊学級を増設しました。なお、県立天草水産高校の設置以来水産教育の根幹をなすものとして強く要請されています。

改築する熊本商業高校……■

した実習船（八五トン）二隻を建造し、底引実習を主として、水産業振興の基幹となる要員の養成に努めることにしました。また、広報車「りんどう号」を利用して県立図書館の巡回文庫を実施したところ、県民の皆様から大変歓迎され、拡充の強いご要望もありましたので、県下全域にわたつて図書館活動の浸透をはかるために、専用の巡回文庫用自動車を購入することにしました。

りんどう号の移動図書館……■

土地改良

干拓・畑地かんがい等に
四億三千万円を

土地改良事業の干拓事業、畑地かんがい事業等四億三千万円余の土地改良事業を行い又、玉名平野の土地改良事業と関連する菊池川の白石堰の災害復旧事業（総事業費約四千四百万円）も本年度の計画にいれて、基礎条件の整備を図る計画もしています。

商工水産

中小企業者の皆さんの中元年末資金として貸付金を昨年の三億円から五億円に増額しており、本年度からは信用保証協会も貸付の対象とする考えです。

又、県産品の市場開拓・販路拡張に積極的に乗出すために、国際見本市への参加などの経費のほかに、沖縄に駐在員を派遣する経費なども計上しています。

水俣病に関する
漁業対策費も

水俣病に関する漁業対策としては真珠母貝養殖事業、漁場転換促進事業、就職あつ旋、など二千七十七万円を計上したほか、天草海区地域の沿岸漁業振興策として、たこ産卵施設、運搬船建造補助金なども計上しました。

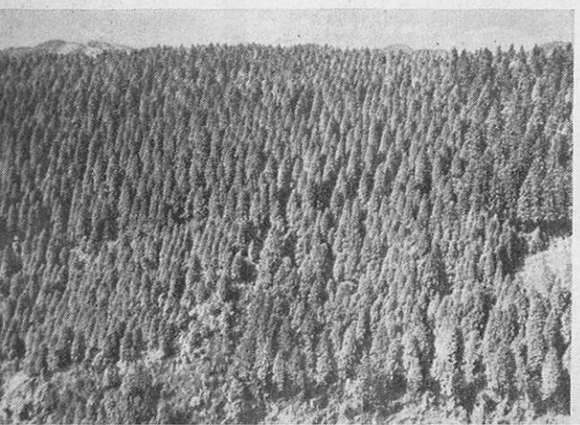
更に水産試験場の指導船球磨丸は大変老朽化し、機能も低下しているので、これを新しく建造して、指導船としての職務遂行に支障のないようにしています。

本県観光の主軸となるのは阿蘇、天草国立公園と、県下に散在する豊富な温泉群で、別府～阿蘇～雲仙を結ぶ九州横断国際観光ルートの開発に併行して阿蘇～天草をはじめ、県下の温泉群や史蹟、民謡等の観光資源を結びつけ、観光の整備をはかることが必要ですが、本年度の事業としては、内牧駐車場、湯の谷山上線、天草千巌山道路などの整備充実に五百四十万円を計上しています。

なお、国体参加の役員選手等を阿蘇に招待し、生きた阿蘇の観光宣伝を行うための経費や、観光旅館の指導等も計画しています。

……■（取水口の工事）……すゝむ土地改良工事

県有林の見事な成育……■



農林

県有林の
効率的な運営を

現在県有林は面積約一万ヘクタール、総蓄積五百六十四万五千立方米（百五十六万八千石）となつています。最近、木材市場での需要の動きをみると、建築様式の変遷などによつて、これまでの直径の大きい木材から直径の小さい木材に集中し、この小径材の価格はこれに応じて次第に高騰しており、国有林、民有林ともに経営方